

農業



平成29年3月号
会誌 No. 1623

目次

巻頭言

北限の農を臨床して50年，開拓三代目の野性児……………夏井 岩男 3

論壇

東京オリ・パラ食材調達基準……………中嶋 康博 4

秋期中央農事講演会

アジア地域と比較しながら日本農業・農村を考え直す……………原 洋之介 6
質疑応答 …………… 22

表彰農家訪問

『あんぽ柿』の技術開発と産地形成を先導し，
震災復興に貢献……………八巻 正 27
－福島県伊達市に宍戸里司さん，初子さんを訪ねて－

農業関係予算情報

平成29年度農業関係予算の概要……………編集部 35

農業・農村の現場から

食の産業遺産の地域資源化による都市農村交流……………佐藤 奨平 47
- 鴨川市大山地区の取り組みから -

世界の農業は今

中国食糧政策の転換……………河原昌一郎 54
- 不透明さを増す食糧需給 -

私の経営と志

クリスマスローズを新規導入から軌道に乗せるまで……………曾田 寿博 61

東京農業大学収穫祭から (第2回)

土地改良は農業問題とどう向き合ってきたのか…………… 農村環境工学研究室 63

農政情報

大日本農会だより…………… 69

編集部から…………… 70

ミニ情報

「食と農の景勝地」認定ロゴマーク…………… 34

農林水産物・食品の輸出額の推移…………… 60

表紙写真説明

3月10日は「名古屋コーチンの日」(愛知県名古屋市)

江戸時代までは、飼育されていた鶏のほとんどが観賞用の愛玩鶏であり、鶏肉や卵をとるための実用的な品種はありませんでした。明治維新後、鶏肉や卵の需要に対応して養鶏業が盛んになり、海外から様々な品種の鶏が輸入され、国内でも品種改良の機運が高まりました。名古屋コーチンは、明治時代に旧尾張藩士の海部壮平・正秀兄弟によって作出された地鶏の傑作で、その優れた肉質や産卵能力が全国で評判となり、明治38年3月10日、日本家禽協会から国産実用品種第1号として認定されました。この史実にちなみ、3月10日は『名古屋コーチンの日』として一般社団法人日本記念日協会から地鶏では全国で唯一認定されています。

昭和30年代に絶滅の危機を迎えましたが、今では見事に復活し、ヒナ出荷羽数は100万羽を超えています。

(名古屋コーチン協会 大塚 勝正)